から九州に現われ四国には未知であるが房総の太平洋沿岸を北進して陸前の松島湾の周囲迄及んで居る。然し何れも産出は少量で var. *boninensis* と称する細手の型が多く且つ幼生が多いので昨年富樫君と仙台の海浜に安田氏の旧採集地を探索したが皆不完全品ばかりで昔の面影に接することは出来なかった。そこで本年夏に昔し多古勝弥君が単に福島県の海岸産として送ってくれた *U. japonica* の標本を頼りに黒川逍君を促して相馬の海岸を探って貰った所予想以上の成績でアラユル型の標本を採集することが出来た。此黒川君の採集品を観察して居る内にフト思いだしたことは爪哇，スマトラのウスネア標本で *U. japonica* に非常に似寄たものがある，或は同一物でいないかと云う疑が起った。其一つは Schiffner 採集 Zahlbruckner 鑑定の *Usnea Vrieseana* Mont. et v. d. Brosch. のレッテルがあるスマトラ産品で他の一つは故緒方正資君の爪哇島採集品で非常に巨大のもので前記 Schiffner 標本に一応筆者が充て置たものである。此の二つの標本は Motyka の Monograph の記載を参照すると *Vrieseana* には一致せず却って *japonica* の方に合致し反応，成分，RS 等何れも *japonica* に相当するので Schiffner 標本のレッテルは間違であると断定し従って *U. japonica* の分布範囲がインドネシア迄拡張された次第でる。

○金峰山の大藤（朝比奈泰彦）Yasuhiko ASAHINA: A big *Wisteria* vine at Kimpo-yama, Yamagata Prefecture.



鶴岡駅の南方約4キロ，現在は鶴岡市内で昭和16年4月に文化財保護法の名勝に指定された金峰山と云う丘陵があり旧時は県社金峰神社の境内であつた。此の小山の登り口の左側の藪の中に図のような藤の巨木が隣接する杉の巨木に倚りかかつて生長して居る。現地の佐藤操一氏の実測によると藤は目通り周囲 2.2 米，杉の方に同じく 3.1 米である。